

ぶくぶくママ 様

愛用ミシン:COMBI SUPER DX2100

ミシンと私

「これ持っていきなさい」

30年前、母が私に言った言葉だ。県外の大学に進学することになった私に母が用意したのは、ずっしりと重いポータブルのジャノメのミシンだった。

「なんで？ミシンなんていらんやろ！」という私に

「絶対に役に立つから」と母。

母の経験上の言葉だった。母は50年以上前、私と同じ様に関西の大学に進学する際にミシンを買ってもらい役に立ったらしいのだ。

ただ私との違いは母は被服科だったため、ミシンは必需品で役に立ち、私は被服科専攻ではないということだった。


当時、母のミシンはミシン台付きのミシンで、ミシンと椅子が机の中に収納される大型のもの。結婚の時も花嫁道具の1つとして持ってきていた。

私が幼い時、二間続きの座敷の奥、縁側にミシンは置かれていた。幼い頃、夏の昼下がりに母がミシンに座ってワンピースなどを作ってくれている光景を思い出す。

そして進学をした私の一人暮らし部屋、クローゼットの片隅にミシンは置かれることになった。

JANOME
100
YEARS
since 1921





出番のないまま数か月。ミシンを最初に使ったのは彼氏ができ、クッションカバーを作るときだっただろうか？洋裁の基本の本を見ながらファスナー付きのカバーを4つ作った覚えがある。母がジャノメのミシンが良いと言っただけのことはあり、糸の通し方、ボビンの糸の巻き方の分かりやすさ、返し縫いもボタン一つ、縫い方のパターンも何種類もあり、ミシンのうらにはロックミシンまで付いてある。縫い始めると重たいだけあって安定感の良さ、布送りがスムーズ。あっという間に出来上がってしまった。初めて作るとは思えない出来栄えだったと思う。そのお陰で彼には裁縫もできる彼女とされていたようだ。ジャノメミシン様様だ。それから自分用のワンピースも作ってみたが、これは私の実力不足で上手に出来たとは言えなかった。

そして私も母と同様結婚の際、ミシンも一緒に嫁入りした。


結婚してからもあまり出番のないまま。出番が多くなってきたのは子供達が幼稚園に入園してからだ。

子供達の通う幼稚園は歯磨きセット、上履き、体操服を入れる巾着のサイズ、巾着の紐の長さ、お手拭きタオルに付ける紐の長さまで指定がある幼稚園だった。

今の時代、手芸店に頼めば幼稚園準備セットとして注文できたり、雑巾まで買えたりする。ミシンを持っていないママ友も当たり前のようだった。ミシンのある私は2人の子供で6年間、毎年子供の好きな柄の布を買い、巾着セットを楽しみながら作った。

また幼稚園時代は毎年バザー用の手作り品を必ず作らないといけなかった。その時もミシンは大活躍だった。バザー会場に行き、自分の品が売れているのを確認し心の中で「よし！」とガッツポーズをした。6年間のバザーも楽しみだった。幼稚園を卒園して高校生になる頃までのミシンは、部活の胴着を直したり、ちょっとした繕いに使うことが多くなっている。ゆくゆくは孫に何か作ってみるのも良いかもしれない。





今、ミシンを使い始めて30年以上、一度も故障することなく動いてくれている。家の電化製品は10年も経たないうちに故障することもあるのに蛇の目ミシンは凄いとつくづく実感する。

職場の同僚もミシンを持っていない人は意外に多い。もし母があの時買っていていなかったら私もミシンを持っていなかったと思う。子供達との思い出もバザーで売れる楽しみもなかったかもしれない。小さかった娘も私がミシンを買ってもらった歳に近付いている。県外に進学することになったら私も娘にミシンを持たせよう。

「絶対に役に立つから！」

「そしてミシンと言えばジャノメだよ！」と。

今のミシン進化してるんだらうなあ。娘と最新のミシンを買いに行く日が楽しみだ。ただ私にとっては最新のミシンがどんなに素晴らしくても、母が買ってくれたジャノメのミシンが一番だなと感じる。